

守れ！殖やせ！南限の植物

エゾノウワミズザクラ

青森県立五所川原農林高等学校 森林科学科2年 ○前田天斗 黒瀧康諒 田中大聖

1. はじめに

みなさんは「エゾノウワミズザクラ」という樹木を知っていますか。青森県には全国的に分布するウワミズザクラは普通に生育しています。しかし、「エゾノ」がつくサクラです。「エゾノ」がつくと北海道のサクラかと想像できます。その通りです。もともとは北海道だけに生育すると言われていたサクラの仲間です。総状花序のウワミズザクラやシウリザクラに似ていますが、雄しべがそんなに長くないこと、葉の根元にある密腺の付き方が異なること、花が大柄で



図1 エゾノウワミズザクラの特徴

あること、などから区別ははっきり付けることができます(図1)。北海道だけに生育するサクラ、このサクラが青森県でも平成14年に発見され、青森県最重要希少野生生物にも指定されています。平成14年度のこの発表会では、当時の林業科の先輩が青森県板柳町に生育する南限のエゾノウワミズザクラの生育状況や保全活動について発表しました。このときには河川敷を管轄する県の協力で、河川環境保全のための看板も設置していただきました。みなさんの中にも覚えている方がいらっしゃるのではないのでしょうか。

2. 研究の動機

今年度、私たちは再びエゾノウワミズザクラの保全活動を開始しました。その理由は、近年、多発するゲリラ豪雨、集中豪雨です。青森県に分布するエゾノウワミズザクラはすべて河川敷にあります(図2)。それも1級河川の岩木川流域です。岩木川は平成25年度、23年度と一部の堤防を越えるような洪水が発生しています。河川敷に植栽している一部のリンゴ園は完全に水没状態でした。そしてエゾノウワミズザクラもです。生育地周辺の河岸は至るところで洗掘が見られ、エゾノウワミズザクラもいつ流失するか分かりません。また、河川敷は定期的に河畔林の伐採など管理作業が行われています。実際に5年ほど前、板柳町の生育地で最初に発見された樹高約7メートルという青森県でも最大級の個体が、河畔林の管理作業で伐採されてしまったのです。河畔林の整理は洪水を防止するためのやむを得ない管理



図2 生育の状況

業で伐採されてしまったのです。河畔林の整理は洪水を防止するためのやむを得ない管理

作業ではありますが、ここでは管轄する官庁との連携不足で伐採されてしまいました。そこで私たち森林科学科では、青森県のエゾノウワミズザクラの生育地の保全に加え、全国初と思われる高校生によるエゾノウワミズザクラの繁殖活動を実施することにしたのです。

3. 研究の方法

まず、私たちは青森県でのエゾノウワミズザクラの分布状況を調査することにしました。本県での自然分布は津軽地方に限られ、岩木川流域だけです。分布地は大きく2カ所に分かれ、五所川原市と隣接するつがる市の岩木川河川敷、及び約20キロメートル南下した板柳町の岩木川支流十川河川敷になります(図3)。板柳町の群落は日本での南限にもあたり、本校の森林科学科の先生が発見したものです。

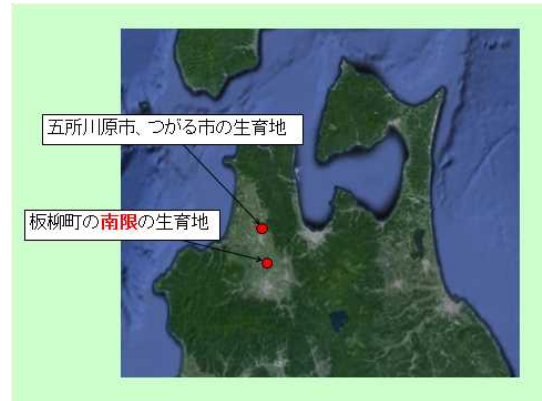


図3 分布状況

エゾノウワミズザクラは伏条更新が盛んに行われており、根元はいくつかに枝分かれした叢生状の根株になっています。その様子から、私たちは挿し木も可能なのではないかと考えました。そこで五所川原市と板柳町の群落から挿し穂をあわせて約50本を採取してきました。五所川原市の群落では管轄する国土交通省五所川原出張所の職員の方にも立ち会っていただき、同時に伏条苗も採取してきました。板柳の生育地では西北地域県民局の許可を得て採取してきました。挿し木は鹿沼土を活用し、約30センチメートルに切り取った挿し穂を鹿沼土に挿しました(図4)。伏条苗は森林科学科の苗畑で養成しています。



図4 挿し木の状況

4. 研究の結果

4月下旬に挿し木をしたものは約1ヶ月ほどで発根が始まっていました(図5)。2ヶ月ほどでかなり発根が進んだので鉢上げすることになりました。挿し木の成功率は約50%でした。当年生の挿し穂の発根率がやや低かったものの、全体的には予想以上に良好な発根性と考えています。今回の実験では発根剤は利用しておらず、灌水の管理もやや不十分だった状況でこのような結果でした。挿し穂の採取方法と挿し木後の管理をしっかり行うことで、100%近い成功率にすることが可能ではないかと考えています。



図5 発根の状況

鉢上げの実施のときには、希少種保全の

初の試みということで新聞の取材もしていただきました。

9月のある日、五所川原市内の藤田さんという方から電話をいただきました。庭で育てているエゾノウワミズザクラ3本が水路工事のために伐採されてしまうので、その前に五農に提供したいと申し出てくださったのです。7月に新聞に掲載されたことがきっかけで本校に連絡をしていただいたということでした。しかし、なぜエゾノウワミズザクラを育てているのか、私たちは疑問に思い、藤田さんに訪ね、さらに詳しいお話を津軽植物の会会長である木村啓先生にもお聞きしました。すると、驚くべき事実が判明しました。青森県でこのサクラが初めて発見されたのは平成14年ではなく、昭和52年だということです。しかし、そのサクラはすぐ伐採されてしまいました。その一部が植物愛好家により五所川原市内に移植されたのですが、それもまた伐採されてしまったのです。藤田さんが育てていたのは、そこから挿し木で増やしたものらしいのです。しかし、つがる市の個体も市内のものも失われてしまい、藤田さんが育てていたものも伐採の運命が待っているのです。これが唯一、最初に確認された個体の遺伝子を引き継ぐものなのです。

早速、私たちは藤田さん宅に伺い、3本のエゾノウワミズザクラの掘り取りにとりかかりました(図6)。サクラの木は樹高が約2メートルで庭と水路の境界に植栽されていました。掘り取りには藤田さんの奥さんにも手伝っていただき、毎年、きれいな花を楽しみにしており、このサクラが掘りとられていくことは少し残念に思っているようでしたが、五農に引き継がれることにはとても期待していました。翌年の春に、五農に花見に来ることを楽しみにしているということでした。



図6 藤田さん宅での掘り取り

そしてさらに驚くべき事実が判明しました。藤田さんが挿し木で増やしたということにも大きな意味があることがわかりました。それは、藤田さんが本校林業科の卒業生であるということです。林業科に在学しているときに挿し木を勉強し、その結果、このサクラが残され、40年後の今、在学している私たちに引き継がれるのです。森林科学科に所属する私たちにとってはまさに運命的な出会いでした。

掘りとったエゾノウワミズザクラは希少種の保護園に設定している、校地内の生活環境保全林「昆虫の森」に移植しました(図7)。昆虫の森にはビオトープとして管理している池があり、その岸辺に植栽しました。もともとこのサクラは湿地帯を好む樹木です。同じような環境を提供するために水辺に植栽したのです。また、私たちが育てた挿し木苗もここに植栽しました。地域ごとに区別して植栽しています。エゾノウワミズザクラは自然の状態でも群落を形成しています。できるだけ自然の状態と同じような環境を作ることが重要と考えました。



図7 保護園への移植

また、板柳町の生育地では管理のための伐採が行われました。そのときには県の河川砂防整備課の職員に立ち会っていただき、エゾノウワミズザクラを確認し、周囲の樹木とともに保全していただきました。今後の伐採予定地においても全木保全していただくように要請しています。

5. まとめ

エゾノウワミズザクラの増殖活動は今年度始めたばかりですが、藤田さんからいただいたサクラは、翌春、保護園内で初めて開花できると考えています。このサクラは本州最古のエゾノウワミズザクラの遺伝子を受け継いでいます。その遺伝子は、本校にあるからこそ、たくさんの機関の協力を得て安心して生きることができると考えています。しかし、もっと大切なことは、本来生育している場所が生育しやすい環境になるということです。私たちはこれからも絶滅の危機に瀕している生物のために活動していくことを考えています。